

兵庫県競馬ビジョン

令和 8 年 8 月
兵庫県競馬組合

兵庫県競馬ビジョンの策定

■ ビジョン策定の趣旨

兵庫県競馬組合の中長期的な経営の基本方針及び方向性を定める。

■ ビジョンの位置づけ

兵庫県競馬組合の経営に関する最上位の指針とする。

本ビジョンに基づく具体的な計画として「兵庫県競馬実施計画」を策定し、事業を推進する。

また、本ビジョンの具現化に向け、各種取組施策の進捗管理を行うとともに社会環境の変化等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行う。

■ ビジョン設定期間

令和8年度から令和17年度までの10年間を計画期間とする。

地方競馬の目的と役割

地方競馬は、地方財政の改善と、馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的としている。

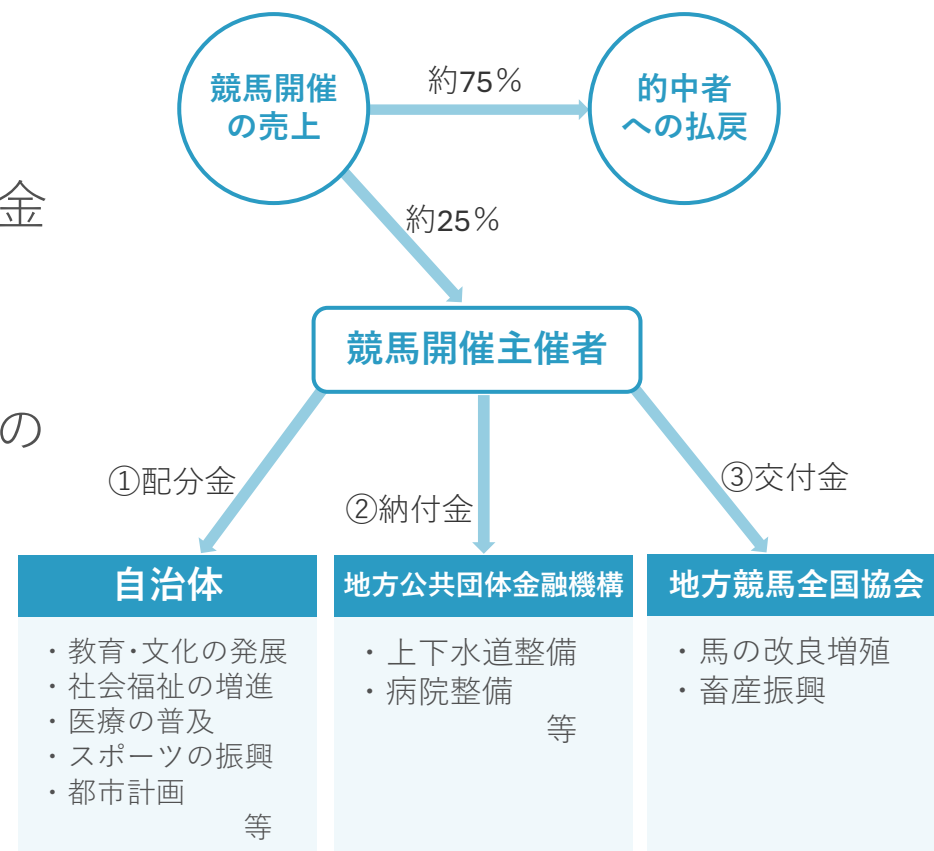
地方財政の改善については、

- ①競馬を開催している自治体への配分金
- ②地方公共団体金融機構への納付金

により実施されており、馬の改良増殖その他畜産の振興については、

- ③地方競馬全国協会への交付金

により実施されている。



(出所) 地方競馬全国協会HPをもとに作成

兵庫県競馬組合の現状（概要）

兵庫県競馬組合(R7実績)

構成団体	兵庫県・姫路市・尼崎市	開催日数	1 6 0 日
本場入場者数	2 7 4, 4 4 1 人 (1日あたり 1,715人)	総売得金	1 2 6, 7 0 8 百万円 (1日あたり 792百万円)
単年度収支	2, 9 4 9 百万円	構成団体への 配分金合計	1, 4 5 6 百万円
関係施設	園田競馬場、姫路競馬場、西脇馬事公苑（トレーニングセンター）、 場外発売所（神戸※、よかわ、福山駅前、和歌山、観音寺、心斎橋、呉、岸和田） ※神戸場外発売所はR8.6発売終了		
関係者等	騎手：35人 調教師：58人 厩務員：306人 在厩馬：1,131頭（園田589頭、西脇542頭）		

兵庫県競馬組合の現状（主要施設）

04

園田競馬場

- **所在地**
尼崎市田能2-1-1
- **敷地面積**
23ha（甲子園球場約6個分）
- **走路**
1周 1,051m
- **厩舎**
20棟 622馬房
- **開催日数(R7)**
138日
- **入場者数(R7)**
245,005人
（1日あたり 1,802人）



（出所）地図・空中写真閲覧サービス（国土地理院）

- **売得金(R7)※**
109,720百万円
（1日あたり 807百万円）
※場外・在宅投票を含む園田開催の売得金

姫路競馬場

- **所在地**
姫路市広峰2-7-80
- **敷地面積**
19ha
走路
1周 1,200m
- **厩舎**
なし（輸送馬房のみ）
- **開催日数(R7)**
22日
- **入場者数(R7)**
29,436人
（1日あたり 1,227人）



（出所）地図・空中写真閲覧サービス（国土地理院）

- **売得金(R7)※**
16,988百万円
（1日あたり 708百万円）
※場外・在宅投票を含む姫路開催の売得金

西脇馬事公苑（トレーニングセンター）

- **所在地**
西脇市合山町834
- **敷地面積**
118ha
- **走路**
本馬場 1周 1,000m
内馬場 1周 906m
坂路調教馬場 1周 804m
- **厩舎**
29棟 550馬房

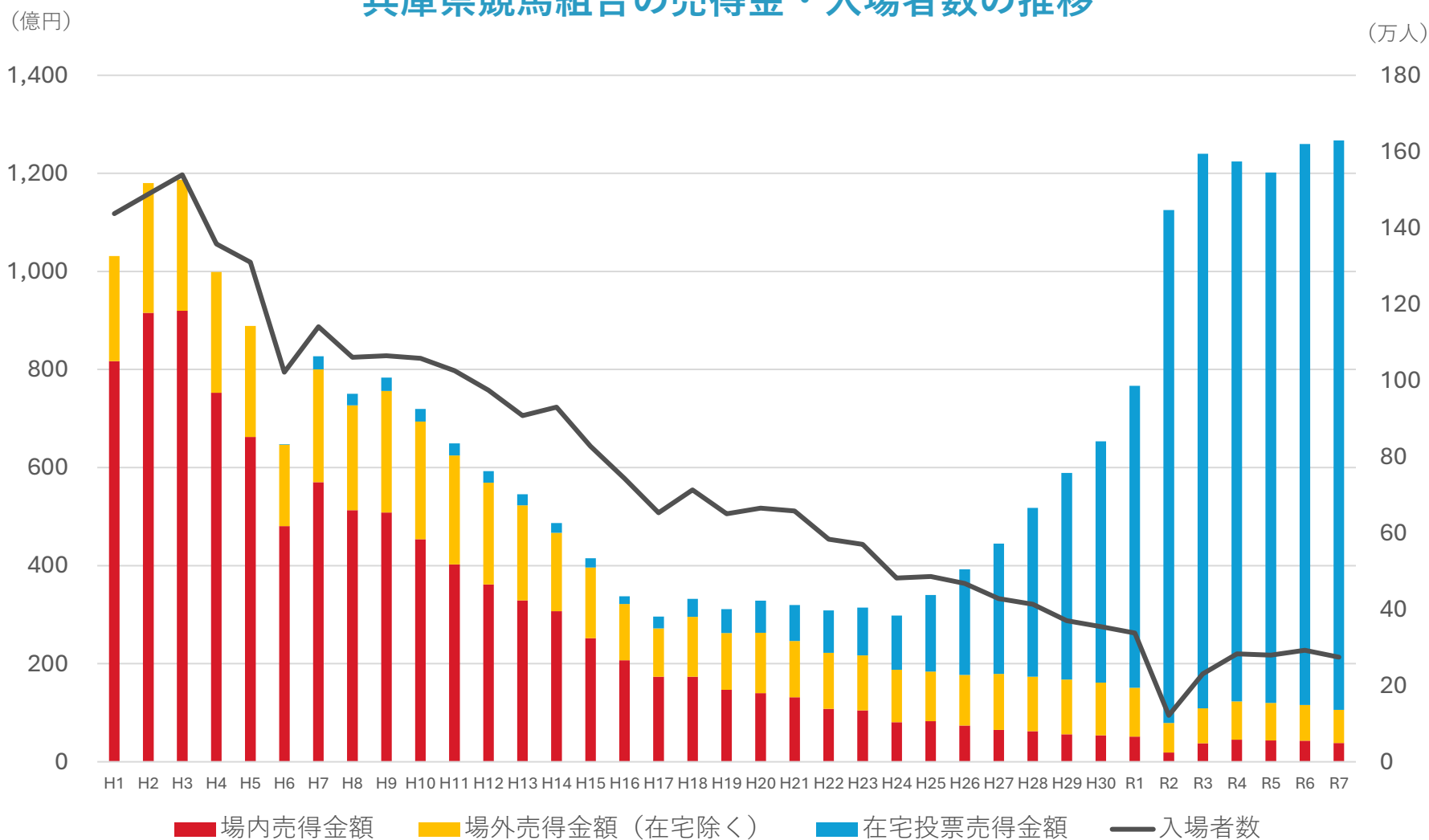


（出所）地図・空中写真閲覧サービス（国土地理院）

兵庫県競馬組合の現状（売得金・入場者数）

05

兵庫県競馬組合の売得金・入場者数の推移



兵庫県競馬組合のあゆみ

-
- 昭和55年
(1980年) ● 兵庫県競馬組合設立
- 昭和57年
(1982年) ● 投票券発売機導入
- 平成6年
(1994年) ● テレフォンサービス（実況中継）開始
- 平成7年
(1995年) ● 電話投票開始
自動払戻機の導入
阪神・淡路大震災のため競馬開催中止
- 平成11年
(1999年) ● サラブレッド導入
(平成17年に全頭サラブレッド化)
兵庫初のダートグレード競走
「第1回兵庫ジュニアグランプリ（GⅢ）」開催
- 平成18年
(2006年) ● 「オッズパーク」によるインターネット
投票発売開始
- 平成20年
(2008年) ● 兵庫初のJBC競走（JpnⅠ）開催
〔 売得金：1日 2,055百万円、1R 911百万円 〕
〔 入場者数：1日 22,174人 〕
吉川場外発売所（DASHよかわ）開設
- 平成24年
(2012年) ● ナイター競馬開催開始
- 平成29年
(2017年) ● キャッシュレス投票システム「DASH-pay」
導入
- 令和元年
(2019年) ● 姫路競馬場スポーツセンター開設
- 令和2年
(2020年) ● 新型コロナウイルス感染症対策のため、
無観客開催を実施し在宅投票のみ発売
薄暮競馬開催開始
- 令和3年
(2021年) ● 園田競馬場、姫路競馬場に新型コロナワクチン
大規模接種会場設置
- 令和7年
(2025年) ● 薄暮競馬開催終了
- 令和8年
(2026年) ● 兵庫チャンピオンシップ（JpnⅡ）が売得金
レコードを更新
(1日 2,363百万円、1R 1,198百万円)

これまでの主な取組

＜来場促進・利便性向上＞

- 最寄鉄道駅からのファンバス（無料送迎バス）の運行
- 多様な観覧席の設置（一般席、指定席、特別観覧席、グループシート、個室等）

＜販売チャネル拡充・売上確保＞

- 場外発売所の設置（DASHよかわ等）
- 電話、インターネット投票の導入（JRA ネット投票、SPAT4、楽天競馬、オッズパーク）
- キャッシュレス投票の導入（DASH-pay）

＜開催形態の多様化・競走魅力向上＞

- ナイター競走（そのだ金曜ナイター）、薄暮競走（そのだサマー競馬）の実施
- JBC、ダートグレード競走、重賞競走、交流競走の実施

＜地域利用等の促進＞

- 園田カーニバルへの会場貸し出し
- 園田競馬場キッズスペースの開設、姫路競馬場スポーツセンターの設置（サッカー・フットサル、卓球、チアダンス教室等）
- コロナ禍における新型コロナワクチン大規模接種会場の設置

事業環境の変化と課題

人口の減少と高齢化の進展

- ✓ 今後も人口減少と高齢化が進行する趨勢。

兵庫県の人口と高齢化率（基準推計値）

	2015年	2025年	2035年	2045年	2055年	2065年
兵庫県の人口	5,535千人	5,299千人	4,911千人	4,457千人	3,992千人	3,486千人
兵庫県の高齢化率	27.1%	31.2%	34.8%	39.5%	40.5%	40.0%

（出所）兵庫県将来推計人口（2015～65年）より作成

デジタル化の進展

- ✓ デジタル化・オンライン化が急速に進展。特にコロナ禍における無観客・入場制限下での競馬開催を契機として、インターネット投票の利用が拡大・定着し、売上の増加に寄与。
- ✓ 競馬場への来場者数はコロナ禍以降も低迷。

社会的要請の高まり

- ✓ 地方創生・地域振興への関心の高まり等を背景とした、競馬が果たす地域社会への貢献に対する要請の高まり。
- ✓ 都市部における競馬場の公共施設機能（交流・公園機能）の発揮に対する要請の高まり。

人口減少・高齢化、デジタル化の進展、社会的要請の高まりなど、競馬事業を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、公正・堅実な経営を堅持し、先進的な取組に挑戦することが求められる。

基本的な姿勢

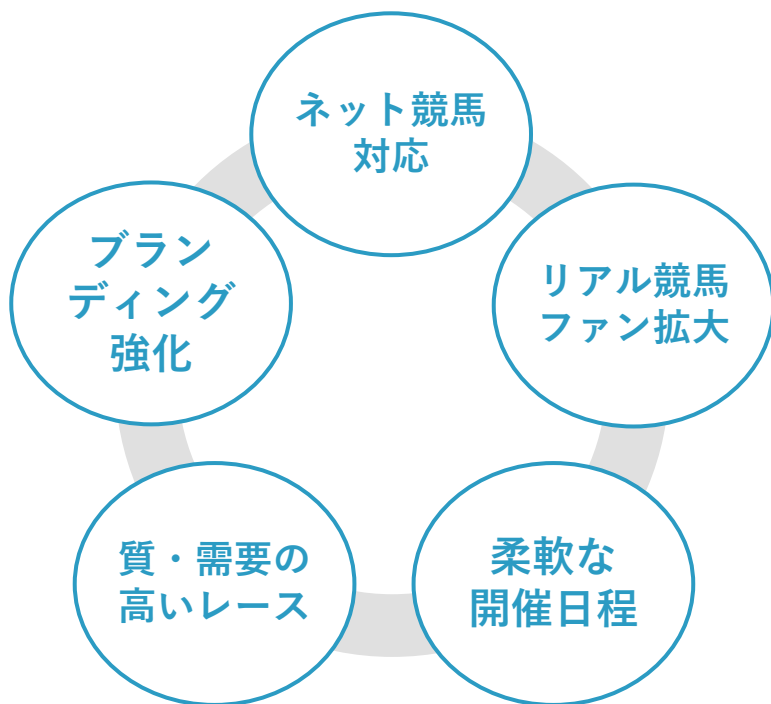
「世界に開かれ地域と共に発展する競馬場へ」

社会環境や利用者ニーズの変化を的確に捉え、
新たな発想と柔軟な取組に挑戦することで、競馬
事業の価値向上と地域社会との共生を図り、持続
可能な競馬場運営を実現する。

これからの取組の方向性①

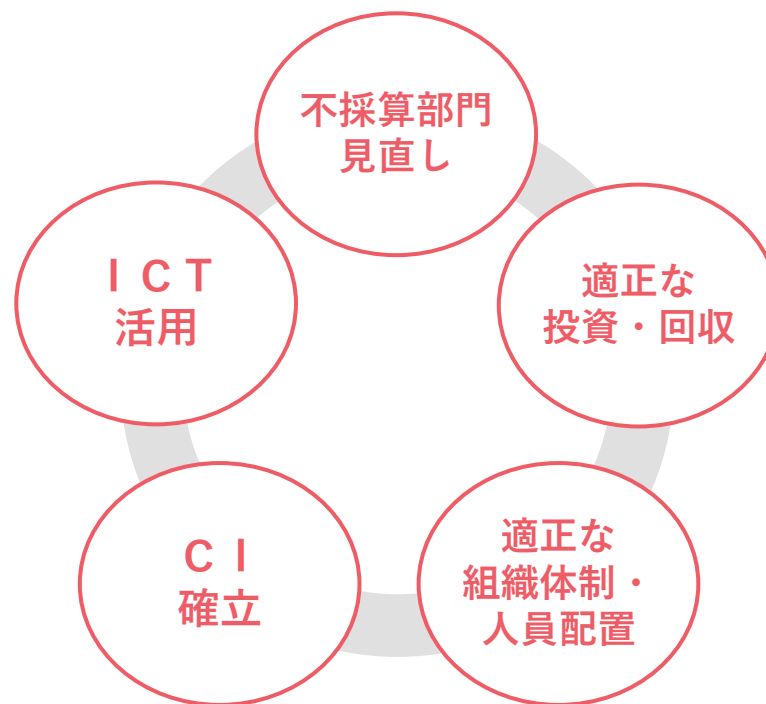
1

売得金の拡大



2

収益率の向上



※取組の推進にあたっては、徹底した数値分析、類似業種比較等を行い、国・地方行政の動向も踏まえる。

これからの取組の方向性②

1 売得金の拡大

競馬事業の根幹である売得金の拡大に向け、国内外のネット競馬と地域に根差したリアル競馬の双方を強化する。さらに、競走の質向上やブランディングの強化を通じて、販売機会の最大化を図る。

取組

- 国内外ネット競馬への対応
- 地域に根差したリアル競馬へのファン拡大
- レース開催日数・時刻の柔軟な運用
- グレードレース等質の高いレース・ファンニーズの高いレースの実施
- 兵庫県競馬の特徴を活かしたブランディング強化

これからの取組の方向性③

2 収益率の向上

売得金の拡大と並行して、不採算部門の見直しやICT活用による事務・管理コストの削減など、費用構造の最適化を進め、健全経営を維持しつつ収益率の向上を図る。

取組

- 不採算部門の見直し
- 適正な投資と改修による設備維持管理コストの縮減
- ICT活用による事務・管理コストの削減
- 適正な組織体制と人員配置
- コーポレート・アイデンティティ（CI）の確立